

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	清田リハビリセンター	公表日	年 月 日
------	------------	-----	-------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	6	利用者の人数に合わせて臨機応変に対応できている。医ケアの時間とリハビリでベットを使いたい時間を考えながら使用している。	ベイススペースの改善（狭い塞い） 長期休みは、大人のご利用者様もいるため、適切なスペースの確保が難しい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	0	7	平常時は、工夫し大きなケガに繋がらないように支援が出来ている。土祝は対1で支援を必要とする児童さんが多くスタッフが交代で昼休憩をとる間（11～14時）はかなり手薄となる。トイレ介助に人手不足	職員人数はもう少し多ければいいと思いますケアが必要な児童が重なる時間帯は十分に見守りにつけていないと感じることがある。送迎で職員が抜けてフロア内の配置数がたりなかったり難しいときがある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	4		床上での排泄介助、導尿支援の利用者にはスリールンとベットやプラットフォームを使用して対応できている。 w/cが狭い
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	3	毎日の掃除、清掃は頑張っています。 児童の特性に合わせて配置場所を決めている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	5	パーティションで囲んでいる。周囲の賑やかな環境下で過ごせないご利用者や大発声のあるご利用者が同日利用することがあり、互いに負の影響がある。	個室は無いのでパーティションで囲んでいる。個別のスペースを十分に確保することはやや難しい。スペースの確保ができないため確保が必要
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	3	システム構築のためまだまだ不十分	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	4	不明（職員への発信不足）	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	3	まずは、スタッフ主体でできることを考えるようになってきている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	5	不明（職員への発信不足）	外部評価が行われているのかわかりません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	2	可能な範囲で実施できている。定期的に研修の機会がある。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	2	今後作成予定	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	1	定期的に面談を通して保護者と対話が出来ている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	サビ管、児発管より、スタッフへの聞き取りを実施したものを材料として評価しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	3	情報については、ラインワークスで共有できているが、実際の支援の確認や修正など、サビ管や児発管が管理できる体制はとれてない。全員が共有されている情報は開示されている。	職員が計画書をみる機会が少なく、十分に周知されているのかわからない
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	3		情報収集中
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1		方向性は正しい
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	4		一部のスタッフが発案している。 各職員が立案、発案できる環境にある。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	工夫出来ている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	集団が苦手な児童には個集団からの参加を促すなど支援を工夫している。児童の特性に合わせて個別活動や集団活動が行われている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	5	同部署内では役割分担を行っているが、他部署とは必ず打合せは行っていない。スケジュールリングを行い担当を把握できるようになっている	支援の打合せをする時間がとれない。その日の児童数や職員に合わせて一人一人の職員のタイムスケジュールが組まれている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	3	問題点やヒヤリハット等は、当日や翌日の朝礼を通して情報共有が出来る。	共有していると思う支援の打合せをする時間がとれない、また、翌日に振り返りを行っているが、支援についてではなく問題となったことについて振り返るだけが多い。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	3		連絡帳の保管方法や記録として機能させるのか等の検討が今後必要ではないか。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2	選択をいくつか提示するなどの工夫が出来ている	必要に応じて行っている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2		必要に応じて情報をお伝えしている。参加できていない。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	3		各関係機関との連携は不十分である。保護者を通して行ってもらっている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	3		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	4		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	1		送迎時や面談、連絡ノートを通して共有理解を持っている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	7	送迎時や連絡帳などを活用し情報共有を行うことが出来る。	参加したい。わかりません。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	2	契約時に担当者より、説明を行い理解した上で利用していただいている。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	1			
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	面談の中で説明出来ている。		
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	敵面おこなえている。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	6		
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	1	内部の支援体制が不十分な状態があるが、時間曜の設定が変更になっている可能性があり、今後は、さらにスムーズに連携していることが望まれる	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	1		HP更新したほうがいい
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	1		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	2	家族への周知ができていない。 職員には、マニュアルファイル内にあること連絡しているがみているかは確認できていない。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	2	できていない。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	3	できていない（職員への発信不足）	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	2	家族への定期的な周知が必要。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1	事故対策について定期的に打合せを行うことで周知を図っている。	ルールの再確認や再評価の機会が少ない。 共有はできているが今後どのように対策していくのか指導や改善がない。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	1			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	0			